

NTT DATA

株式会社NTTデータソルフィス

株式会社NTTデータソルフィス 様

USB Token™ 3300 A



SecureDoc™ 
ENTERPRISE EDITION

社内PC持ち出し時の情報漏えい防止に USBトークンで暗号化ソフトの二要素認証を採用

- Windows7 32bitと64bit、どちらのエディションにも対応
- 暗号化ソフトSecureDocとの組み合わせ動作検証済み
- SIMカードが内蔵されているため、破損しても外装だけ取り替え可能

導入の経緯

株式会社NTTデータソルフィスは、NTTデータの子会社3社が2009年に合併してできた会社だ。合併に当たって社内のシステム統合を行ったが、その際、ひとつの課題になったのが、社内で使うPCのセキュリティー管理である。

親会社のNTTデータのグローバル・セキュリティー・ポリシーは「PCの持ち出しは原則禁止」。しかし、エンジニアが顧客企業に赴いてシステム開発などを行う同社の場合、PCを社外に持ち出さなければならない場面は

多い。その際の情報漏洩を防ぐための施策は、各社まちまちだった。これをひとつの方法論に統合し、同時にそれを機に利便性も向上させたいというニーズを満たすために、同社が選択したのがUSBトークンによる認証とHD暗号化ソフトのプリブート認証という「二要素認証(Two-Factor Authentication = 2FA)」である。統合を担当した同社経営企画室ITマネジメントグループのエンジニアのみなさんに、生の声をうかがった。



株式会社NTTデータソルフィス
経営企画室
ITマネジメントグループ 課長
井川 竜二 様



株式会社NTTデータソルフィス
経営企画室
ITマネジメントグループ
馬場 順一郎 様

System

- 【認証USBトークン】**
Pentio USB Token 3300A
- 【認証システム】**
WinMagic SecureDoc 5.2
(HD暗号化ソフトウェア)+
SecureDoc Enterprise Server
(管理サーバ)
- 【証明書発行システム】**
お客様認証局
- 【クライアントOS】**
Windows 7 (32bit/64bit),
Vista (32bit/64bit), XP

Profile



株式会社NTTデータソルフィス

2009年、株式会社NTTデータの子会社であるNTTデータ・アイテック、NTTデータサイエンス、データサイエンス・モデルシステムズの3社が合併して誕生。SAPのERPコンサルティングや製造業などに向けたソリューション開発を手がける。

〒130-0022
東京都墨田区江東橋4-26-5
東京トラフィック錦糸町ビル
<http://www.nttdata-solfis.co.jp>

この件に関する問い合わせ先は
ペンティオ株式会社 TEL.03-5919-0971

合併を機に社内セキュリティ・ポリシーの統合に着手。 最適解を模索し、ペンティオソリューションに出会う

合併を機に社内PC持ち出し時の セキュリティー対策を統合。 セキュリティー強化と利便性向上を図る

合併前のPC持ち出しの際のセキュリティー対策は、アイテックが「USBトークンによるログイン認証とHD内の必要なフォルダの暗号化の併用」、サイエンスとモデルシステムズは「HD全体を暗号化」というものであった。だが、どちらの方法にも課題と不満があった、とITマネジメントグループ・馬場氏は語る。

「必要なフォルダのみの暗号だと、万一PCを盗まれたり、紛失したりしてHDを引き抜かれてしまうと、非暗号化領域に置いてあるデータは漏洩してしまう。一方、HD全体の暗号化は国内でメジャーな暗号化ソフトのひとつを使っていたんですが、PCのパフォーマンスが非常に悪くなる。セキュリティー対策の統合を機に、セキュリティー強化と利便性の向上というトレードオフな課題を一気に解決できるソリューションを見つけないといけないのが、私たちのニーズだったんです」

要件は他にもあった。サイエンス、モデルシステムズ両者は32bitマシンのユーザーばかりで、暗号化ソフトは32bitだけの対応でよかったが、アイテックには64bitマシンのユーザーが多い。また、Windows XPからWindows7への移行にも対応できなければならないので、新しい暗号化ソフトはWindows7 32bitと64bit、どちらのエディションにも対応しなければならない。

加えて、USBトークンによる物理的ログイン認証も併用するため、暗号化ソフトがUSBトークンに対応していることも条件になる。

「その上、利便性まで向上させたいというのですから、そんな都合のいいソリューションがあるわけがない、というのが私の率直な感想でした」(馬場氏)

SecureDocとUSBトークンとの 組み合わせによる動作検証が 行われていることが導入の決め手に

ITマネジメントグループがまず行ったのがUSBトークン探しだった。Windows7対応などの要件に適合したUSBトークンを見つけ出し、そのトークンとで動作が検証されている暗号ソフトを選ぼうというのが、彼らの作戦である。ヒットしたのはPentio USB Token 3300AとWinMagic SecureDocという組み合わせだった。

「Windows7の32,64bit、どちらのエディションにも対応することが検証されているという点で、我々の要件を満たしていますし、トークン内部にSIMカードが内蔵されているというのもポイントでした。それまで使っていたトークンは差込部の磨耗や破損が多く、そのたびに置き換えの手間と費用がかかっていましたが、万一外装が壊れてもSIMカードを入れ替えれば済むので助かります」(同グループ、井川氏)

「さらにSecureDocはそれまでの暗号化ソフトに比べて私たちのニーズに合致していると判断しました。そのソフトはアプリケーションレベルで暗号化を行いますが、SecureDocはセクターレベル、ドライバーレベルという低いレイヤーで暗号化と復号を行っているため、パフォーマンスの低下が起きにくい」(馬場氏)

その結果Pentio USB Token 3300AとWinMagic SecureDocという組み合わせを採用したのだという。



思い通りの使い勝手に満足。 想定していた不具合もなし

こうして社内PCの新しいセキュリティー対策が今年5月にスタートした。実際に稼働させてみての感想はどうなのだろうか？ 馬場氏は言う。

「導入も、手順書を作っていたこともあってスムーズでしたし、使い勝手も思った通り。もっと不具合が出ると思っていたのですが(笑)」

さらに井川氏も、「PentioとWinMagic両社が密に連携を取っている点に安心感があります。トラブルが起きて両社できちんと対応してくれるでしょうから。往々にして『問題は相手の製品にある』と主張して責任を押し付けあうケースがありますから」

そして、このような使い勝手を向上させた要素に管理サーバがある。

「ログを参照したり、プロファイルの書き換えがオンラインでできるなど、便利ですね。前の暗号化ソフトを使っていたころもテスト的に管理サーバを使ってみたことがありますが、バックグラウンドで通信を行うと動作が重くなるなど、あまり使い勝手がよくなかった。今回はそういうこともありません。従来、台帳で管理していたトークンも、いまは管理サーバでできます。サポートに関しては、外資系企業ということで、対応が悪いのではないかと心配していましたが、PentioとWinMagic両社が緊密に連携をとっていて、予想以上に決め細やかな対応をしてもらっています。Pentioのエンジニアに連絡するとすぐに確認して、アドバイスをくれますね」(馬場氏)

ペンティオは今後さらにパートナー企業との連携を深め、同社のような技術に明るい顧客企業からも高い評価を得られる製品・サービスの提供に力を注いでいきたい。



ペンティオ株式会社

〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-4 久保ビル 3F
Tel. 03-5919-0971 Fax. 03-5919-0980 Email. sales@pentio.com
http://www.pentio.com/

©2011 Pentio Co., Ltd. All rights reserved.

●ペンティオ、ペンティオのロゴ、および本文中に記載されている製品名は、日本および他の国におけるペンティオ株式会社の商標または登録商標です。
●本文中に記載されている商品名および社名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。
●製品の仕様・デザインは予告なく変更することがあります。ご了承下さい。